

謝辞

本研究にあたり実習施設と合わせて快く受け入れていただいた研究対象施設の看護部長をはじめとした職員の皆様には深く御礼申し上げます。特に病棟スタッフの皆さま方には温かく接していただき研究を進めることができました。

本研究を進めるにあたり計画書の段階からご指導してくださった小山田恭子教授には深く感謝いたします。研究学者である私に対し、言葉の一つ一つから丁寧にご助言いただき、改めて自身の文章能力の乏しさを感じるとともに、この論文としてまとめるに至るまで多大なる支援をしていただきました。研究者として歩み始めたばかりですが、この程いただいたご助言を忘れず、今後も精進していきたいと思います。

研究計画を立てる段階では奥裕美准教授に度々面談させていただき、自身のリサーチエスションに対する思いの丈を受け止めていただきました。まとまりのない話ばかりでうまく伝えられないことばかりでしたが、まっすぐ向き合ってくださいました。三浦百合子先生とは Concept Based Learning を学部生とともに学ぶ機会を作ってください、概念の理解を深めることができました。2 年間を通しお二人の先生には様々なご教授いただきました。ありがとうございました。

そして昨年までご指導してくださった松谷美和子先生には看護教育という道に導いていただき、ご教示いただいたことに深く感謝いたします。入学前に面談で「あなたは教育学の方が良いと思います」という言葉を信じ看護教育学を選択いたしました。看護教育を専攻し演習の中で先生の教育に対する理論や知識、ディスカッションを通じて様々な知識を得ることができました。特に印象深いのは常々対話の重要性をおっしゃられていました。本研究結果からも対話が如何に必要なのか、改めて実感いたしました。

最後に大学院進学中に家庭を支えてもらった妻 睦といつも笑顔で迎えてもらった娘 恵愛、二人の力なくしては辿り着けなかったと思っています。また遠方より私の両親と義理の両親にはサポートしていただきました。家族の皆さま、本当にありがとうございました。

関わっていただいたすべての皆様に心より感謝し、謝辞とさせていただきます。

2019 年 1 月 31 日